



●株式会社一鶴

所在地 丸亀市土器町北二丁目 74 番地

業種 飲食サービス業

事業概要 テーマレストラン「骨付鳥 一鶴」
の経営

従業員数 241 人（男性 154 人、女性 87 人）

育児休業取得期間 R 元年 11 月に 14 日間取得

○制度を知り、利用しようと思ったきっかけは

本社、事務センター・経営企画室を中心に次世代育成支援『くるみん』の取得への取り組みの施策として育休支援案内のチラシの作成、店長会議での制度説明など、社員に対して周知徹底をしてきました。その後、各店舗での周知を経て、育休の申し出があり取得できましたので、今回の申請となりました。

○飲食サービス業では育休取得は困難ですか

女性従業員が育休取得をして復帰してもシフト制の現場ではなかなか就業継続が難しい場合もあり、配置転換などの対応も必要です。場合によっては離職ということもありえるので、人員定着のためには、時流に合わせた柔軟な対応が必要であり、男性の育休もそのひとつだと考えます。幸い、今回の男性従業員の育休取得の場合、現場もかなり協力的に進めてくれて、現場と制度がマッチしてきたと実感しています。各店舗の状況にもよりますが、市内で最大の店舗従業員が今回育休を取得できたこと、その店長もここを乗り越えるために従業員全員でフォローすることが現場の人材育成効果もあり、好循環にもつながると判断したことが大きく、今回のケースをきっかけに、大阪の店長代理や市内別店舗の男性従業員からの育休申請も予定されている状況です。



▲「若い人の考えを理解する柔軟な発想と現場の対応力が人員定着には重要」と話す伊藤部長

○今回、育児休業を取得した社員さんの感想と現場の変化などを部長さんから伺いました

初めての出産だったこともあり、妻の負担を少しでも和らげたいとの思いから、育休申請をしたと聞いています。今回の育休取得前も有給休暇を使用して、妻を助けながら出産に臨むなど、父としての自覚が大きく膨らんだとも言っていました。彼は調理スタッフとして大変素晴らしい技術をもっていて、店として休まれるのは、本当は痛い。でも、育休復帰後に、「育休取得のおかげで育児スタートがうまくいき、フォローしてくれた皆に感謝します。今後、自分に続く育休取得者がいたらフォローをしていく」との決意も聞いたので、良い流れに進んでいると思います。

子どもさんの話で会話が盛り上がるというのはよく聞くとおもいますが、従業員間の関係性にも変化があります。それは、小さなお子さんをお持ちの上司に「今日は早く帰って、子どもさんのお風呂入れてあげて」と声掛けする従業員がいたりすることです。ワーク・ワークだった時代からワーク・ライフ・バランスの機運が上がり、働き方改革推進にも好影響を生んでいると実感します。

○ワーク・ライフ・バランス推進、働きやすい職場環境づくりのために行政からどのような支援があったらいいと思うか



「一鶴は、今年で創業 68 年」

最近はず日などの休みも増えて飲食サービス業としては収益面でプラス材料ではありますが、社員への負担は逆に増加します。支援というよりも、自社で対応していくこととして、働き方改革、女性活躍推進など時代の要請も踏まえながら、またそのときに、追い風向かい風があると思いますが風をうまくとらえながら、職場環境の向上と風土の醸成に努めていきたいと考えています。

(取材を終えての感想)

部長さんが入社した当時は体育会系の職場風土だったそうです。育休どころか休むことも難しい時代だったのが、今では週 1 日、各店舗の定休日を設けたり、店舗の昼休憩を 14:00~16:00 から 14:00~17:00 に変更して、夕方開店の準備時間を確保（従業員のリフレッシュ時間にもつながる）したりと職場環境改善、働き方改革が着実に進んでいる印象を持ちました。飲食サービス業は、働き方改革が困難というイメージがどうしてもつきまといますが、人員不足をさせないための最善の策は何なのか、人員の定着にはどうすればいいのかを考え、制度・取り組みを柔軟に使いこなす気概のあるなし、実際に取り組む取り組まないが企業の力量なのかと感じました。